

歴博 くらしの植物苑だより

第105回くらしの植物苑観察会 12月15日(土)

サザンカの世界 箱田直紀(恵泉女学園大学名誉教授)

1. 西南暖地生まれの日本の花

サザンカは、四国の西南部から九州、沖縄にかけて自生する日本生まれの花木で、本州では山口県の萩市だけに自生がみられます。青森県まで自生するヤブツバキと比較すると少し寒さに弱いのは、もともとがより暖地型のためです。室町時代から江戸時代初期にかけて自生地から京や江戸などに持ち込まれ、江戸時代の前半には数多くの園芸品種が生まれ、さらに後期には広く市中に植えられるようになったと考えられています。

春に花開くツバキの華やかさに対して、他には花の絶えた晩秋から冬枯れの中で咲く花として、日本人の郷愁に訴えかけるような寂しい花の代表的存在でした。

しかし、最近植えられているサザンカは寂しさの花ではありません。今から50年ほど前から、白、桃、紅色などの八重咲きの華やかな品種が大量に増殖され、急激に普及して、日本人の郷愁とは別の華やかな花々が変わってきました。

冬枯れのわずかな彩りであったサザンカは、今や冬枯れに向かおうとする庭にもう一度華やかさを取り戻すための主役になってきたようです。

2. 園芸的には4群に分類される

四国や九州などに自生するサザンカは一重の白花ですが、園芸品種には白花の他に濃淡様々な桃花や紅花が沢山あり、一重から八重、千重咲きといわれるものまで花形も様々です。そのためそれぞれの品種の来歴や花や樹の特徴から園芸的には以下の4つの品種群に分類されています。

① 狭義のサザンカ群……花は一重で花形が自生サザンカに近い、狭い意味でのサザンカで10月から12月まで咲きます。昔からサザンカといえば大部分がこの系統で、樹形は、どちらかというとうと枝先が上を向いて立ち上がり気味となります。

② カンツバキ群……植物分類上からはサザンカ群と区別できないのですが、花の雄しべの多くが花弁に変わって八重咲きとなり、開花期もやや遅くて冬に咲き続け、樹形が比較的横に広がるという共通した特徴があります。近年各地で植えられている八重咲きのサザンカはほとんどがこの系統です。

③ ハルサザンカ群……江戸時代に生まれたものが多いサザンカとツバキとの自然雑種やその後代と考えられているグループです。花形は様々ですが、いずれもサザンカとツバキの中間的な特徴を持っていて、多くは12月から3月にかけて咲き続けます。

④ タゴトノツキ群……サザンカに似ていますが中国原産で、種子から油をしぼるために栽培されてきたユチャの系統で、‘田毎の月’という品種とその実生グループです。植物学的には別の種なのですが、園芸的にはサザンカとして扱われています。白花の一重で、10月から12月にかけて咲き、よく結実します。

3. サザンカの栽培適地

上述のようにサザンカの故郷は四国や九州などの暖地ですが、人がサポートすれば遥かに北方まで栽培が可能です。最近では東北地方でもかなり各地で栽培がみられ、それなりに越冬しています。しかし、樹齢 200 年以上の古木の存在ということになると関東地方北部あたりが限界のようです(右図)。今日のような暖冬が続くともう少し北まで越冬可能となるかも知れませんが、少なくとも今までは何十年あるいはそれ以上の間隔でも大寒波が訪れ枯死したようです。

4. 佐倉市のサザンカ

筆者は今から 27 年前の 1980 年 11 月のはじめに、友人 3 人と一日だけ佐倉市のサザンカを探索したことがあります。当時は花の時期になるとは九州や四国など各地のサザンカを訪ね、古木や隠れた園芸系統を探していた時期でした。

佐倉市を訪ねた理由は、戦後いち早く出版された「園芸大辞典」(石井 1950) のサザンカの項に「明治 30 年頃に印旛郡佐倉町で恩田さんという人がサザンカ 50 余品種を栽培していた、その一部はその後東京にも持ち込まれた」という内容の記事があったためです。はじめに市役所で明治時代の戸籍から調べてもらったところ、「サザンカを栽培していたかどうかわからないが、現市内に恩田岳造という人が住んでいたが、明治 37 年に亡くなり、その直後に夫人と幼児 2 人は夫人の生家がある東京の本所に転出した。旧住居跡は現在は小学校の一部になっている」というところまでわかりました。

跡地が小学校では屋敷林や畑が残っている可能性はありませんが、念のために周辺の住宅地などを探してみました。その日は暗くなるまでの 3 時間ばかりの探索でしたが、当時からのものと思われるハルサザンカ‘銀竜’‘飛竜’‘星飛竜’3 本の古木がみつかりました。この 3 本は江戸時代からの古い品種で、さし木か接ぎ木でなければ殖やせないのも、直接か間接かは不明ですが、恩田家とのかかわりのある系統だと思われました。しかし、日没が迫り、さらにその後は忙しさに紛れて再調査の機会がありませんでした。

数年前から「くらしの植物苑」の展示の手伝いを含めて歴博を訪ねる機会が多くなり、サザンカの花の時期にはいつも気にしながら再調査のタイミングを失っていました。それが、ようやく今年から歴博スタッフを中心に市内のサザンカ調査が開始されました。

まだ予備調査の段階ですが、1980 年調査の古木のうち 2 本は生存が確認され、それ以上に、市内の寺院などからは多くの古木がみつかりました。また、古木というほどではなくても、生け垣や道路に沿って植え込まれたサザンカの古い木は各所でみられ、今後の調査を楽しみにしています。

古い城下町であり、江戸との交流も密であった佐倉周辺には、意識してみるとサザンカに限らず、まだまだ沢山の貴重な古い園芸品種が残っている可能性を感じています。

次回予告 第 106 回くらしの植物苑観察会 2007 年 1 月 26 日(土)

「炭と植物」 吉村郊子(当館研究部歴史研究系助教)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要 要入苑料